



令和4年度～令和6年度

第5次中期経営計画 進捗状況報告書

兼 自己改革の取り組み

(令和4年3月1日～令和5年2月28日)



組合員皆様の声をJA運営へ

皆様との対話を通じて、農業担い手目線で目標や具体策を策定し、自己改革の目的である「農業者の所得増大」を実現します。そして、皆様からの評価を把握し次の取り組みへつなげ、不断の自己改革を継続してまいります。

JAいわて花巻 自己改革の取り組みについて

JAいわて花巻は、令和4年度に新たに策定した第5次中期経営計画(令和4年度～令和6年度)に基づき、「農業」と「くらし・組織・経営」それぞれに取り組みテーマや重点取組項目を掲げ、その達成に向けて取り組みました。農業生産において、水稻は作況こそ平年並みであったものの、夏場の低温や長雨の影響により収量が減少し、最終集荷実績は145万袋と目標の165万袋を大きく下回る結果でした。野菜は低温や長雨により収穫量が大きく減少しましたが、果樹はリンゴの生育が順調で、目標の27万ケースを超える集荷実績をあげることができました。また、イベントについては各地域で3年ぶりに収穫感謝祭を開催し、組合員や地域住民から好評をいただきました。

今後もJAいわて花巻は、総合事業を基本として地域になくしてはならないJAであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じて「不断の自己改革」に取り組んでまいります。



自己改革を実践するための具体的な方針

- 「担い手との対話」を原点として、訪問活動や座談会などを通じて、ニーズを的確に把握します。
- 「農業者の売上増加・コスト低減」につながる必要な取り組みについて、担い手目線で目標及び具体策を策定・実践し、改革の目的である「所得増大」を実現するほか、「地域の活性化」や「協同の強化」にも取り組みます。

「農家手取り向上」(農家組合員の所得増大と農業生産の拡大)のため、次のことを取り組みます。

- ア. 銀河のしずくの作付拡大(米穀)
- イ. JA独自支援の充実による作物振興(園芸)
- ウ. 新たな奨励措置の創設、予約供給価格等の引き下げ(生産資材)
- エ. 次世代等農業者支援制度の創設

「地域の活性化」や「協同の強化」に向けて、次のことを取り組みます。

- ア. 「支店を核」とした事業運営の展開
- イ. 支店企画イベントの充実(地域貢献、「地域農業・JAのファンづくり」に向けた取り組みなど)

- 自己改革の取り組みと成果について、訪問活動や座談会などを通じた対話によりその評価を把握し、次の改革につなげることでPDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

※PDCAサイクル：「計画→実行→評価→改善」を継続的に繰り返し、次の行動や取組内容等に反映させる手法

自己改革を支える経営基盤の確立・強化の取り組み(シミュレーションや経営基盤の強化策等)

農業・JAを取り巻く環境は非常に厳しい状況であり、JA経営においては、総合事業を支える信用・共済事業の収益が年々減少しています。さらに営農の利用施設(カントリー、園芸センター等)においては、電気料や燃料費等の高騰、今後見込まれる施設修繕により、運営コストが上昇していきます。

これらのことを加味し、現状のまま事業改革を進めなかった場合(成行)のシミュレーションを行ったところ、令和9年度の事業利益は1億円程度となる見通しとなりました。

事業伸長や経営基盤強化など、改善に向けた取り組みを実践することにより、令和9年度の事業利益は2億円以上確保できる見込みですが、経営に影響を及ぼす事由が発生する懸念もあることから、あらゆる環境変化を的確にとらえ、機動的に計画の見直しを検討しながら事業を展開してまいります。

自己改革の実践に向けた組合員の意思反映(准組合員の意思反映等の方針)

自己改革の実践にあたっては、改革の評価の把握に向けた正組合員との対話や集落座談会のみならず、「正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員」、「農業振興の応援団」である准組合員の声も聴くことで、正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現し、組合員の評価を踏まえながら必要な見直しを行います。

また、准組合員の事業利用にあたっては、正・准組合員の利用状況を把握したうえで、改革の目的である「農業者の所得増大」につながるよう取り組みます。

JAいわて花巻 自己改革工程表 (第5次中期経営計画の主な振り返り)

取組内容(重点取組項目)	成果指標	令和3年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度			
		実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
農業者の所得増大・農業生産の拡大	銀河のしずくの作付拡大 効果 取扱高増	作付面積 406ha	465ha	501ha	800ha	—	2,400ha	—		
	JA独自支援の充実による作物振興(園芸) 効果 取扱高増 効果 コスト削減	作付面積	31.7ha	35.4ha	34.7ha	40.2ha	—	50ha	—	
		販売額	150百万円	217百万円	135百万円 ※前年同期対比 106.4%	249百万円	—	302百万円	—	
	地域重点品目に対する支援等による販売高の増加	園芸販売高総額(百万円)	2,762	3,400	2,920	3,484	—	3,592	—	
	新たな奨励措置の創設、予約供給価格等の引き下げ(生産資材) 効果 コスト削減	JA利用量等に 応じた新たな 奨励施策の実施	新奨励措置の創設	—	制度設計	肥料高騰対策を優先するため、次年度以降へ繰越	実施	—	継続	—
次世代等農業者支援制度の創設 効果 コスト削減	年間助成額	—	5,000千円	1,132千円 (利用者40件)	5,000千円	—	5,000千円	—		
地域の活性化・協同の強化	「支店を核」とした事業運営の展開	組合員課の設置	—	設置の検討	令和5年3月に設置(全支店)	設置	—	設置	—	
	支店企画イベントの充実 (地域貢献、「地域農業・JAのファンづくり」に向けた取り組み等)	支店感謝デーの開催	17支店 年4回実施	一部支店にて実施	全支店実施	全支店 年4回実施	全支店 実施	—	全支店 実施	—
		デジタル化対応に係る支援	スマホ教室の開催	一部支店にて実施	全支店実施	全支店実施	全支店 実施	—	全支店 実施	—
経営基盤の確立・強化	事業管理費・費用(事務)削減、デジタル化への取り組み	各部門にて協議・検討	—	検討	検討中	検討	—	検討/実施	—	
	赤字部門の収支改善	園芸センター事業	検討継続	—	検討/実施	検討中	検討/実施	—	検討/実施	—
		介護保険・高齢者福祉事業	中期経営計画期間中に今後の方向性を決定	—	検討/実施	令和4年9月末グリーンホーム落合(落合温泉)廃止 ※その他事業所の運営も継続検討	検討/実施	—	検討/実施	—
	効果的・効率的な要員配置、部門間連携の取り組み	畜産センター設置による広域連携と人材育成	機構変更	—	検討/実施	令和4年3月に実施	—	—	—	
対話・意思反映	集落座談会の開催	参加者数	コロナ禍により実開催は未実施 ※書類送付による質問の受付	秋期：1,800名 冬期：2,000名 正組合員戸数の10%以上	秋期：1,113名 出席割合 6.6% ※一部地域において参加者を限定して実施 冬期：1,444名 出席割合 8.4% ※令和4年度末正組合員戸数17,144戸	—	—	—		
	准組合員モニター制度 ※アンケート	参加者数	27名	50名	50名	—	—	—		
	地域コミュニティ紙発行によるアンケート	アンケート提出人数	夏：108名 冬：247名	夏：300名 冬：300名	夏：277名、冬：309名	—	—	—		

1 農業者の所得増大・農業生産の拡大

1 銀河のしずくの作付拡大

「銀河のしずくの計画的な作付拡大、JAいわて花巻オリジナル米による販売強化」をテーマとして掲げ、令和6年度の作付割合は銀河のしずく20%、ひとめぼれ69%となるよう目標を設定。

◆作付拡大のねらい

- ▶「厳選」銀河のしずくによるブランド化（JAいわて花巻オリジナル米）と販売力強化
- ▶「ひとめぼれ」と「銀河のしずく」を主力とした実需者需要に応える米づくり
- ▶個別販売（JAが直接実需者へ販売）強化による農家手取りの向上

◆令和5年度以降の取組について

- ▶西和賀・遠野地域は「慣行」銀河のしずく」の推進を更に行い、「厳選」銀河のしずく」を取り扱う花巻・北上地域は、個別に面談等を行いながら推進する。
- ▶ブランド化（JAいわて花巻オリジナル米）は、令和6年度より実施できるよう関係機関等と検討を重ねる。



●地域毎の令和4年度実績

	目標 (ha)	実績 (ha)
花巻地域 『厳選』	177	158
北上地域 『厳選』	219	216
西和賀地域 『慣行』	45	102
遠野地域 『慣行』	25	25



県知事による「銀河のしずく」稲刈り



花巻空港にて「銀河のしずく」PR

2 JA独自支援の充実による作物振興(園芸)

高収益作物の新たな作付振興とJA独自の支援策『**花巻農協園芸産地確立事業**』により、「持続可能な生産基盤の拡大を支援」するため各種取組を実践。

①ねぎ産地確立のねらい『ねぎ新規・増反に向けた支援』※3か年で総額5,000万円

- ▶ねぎと果菜類の組み合わせによる販売期間の拡大、農家粗収益の向上
- ▶JA独自支援策の創設による「あと一歩の後押し」、初期投資費用の支援

②地域別重点品目の選定、維持・拡大への支援のねらい ※3か年で総額3,000万円

- ▶生産継続にかかる防除能力増強

◆令和4年度実績 JA助成額(件数)

ねぎ新規・増反	…	5,991千円(7件)
ねぎ生産継続・生産能力増強	…	3,633千円(9件)
地域重点園芸品目防除能力増強	…	2,058千円(8件)

◆令和5年度以降の取組について

- ▶事業周知の強化による生産者の確保

利用者からの声

労力の軽減ができた!

収穫・調整の時間短縮につながった!

薬剤散布の効率が大幅に上がった!

次年度、面積拡大できる余力ができた!

◆用語解説

- 地域重点園芸品目
 - 花巻地域 : きゅうり、ピーマン、トマト(ミニトマト含む)、なす、アスパラガス、ねぎ
 - 北上地域 : トマト(ミニトマト含む)、ピーマン、きゅうり、アスパラガス、セリ、ねぎ、ニ子さといも
 - 西和賀地域 : きゅうり、ミニトマト、アスパラガス、ほうれんそう、(ねぎ)
 - 遠野地域 : きゅうり、ピーマン、アスパラガス、にら、ほうれんそう、ねぎ
 - ※地域横断品目 : (花き) りんどう、小菊、カンパニュラ、トルコギキョウ、鉢花
- 農の匠
 - 地域の中核農家を指導役として任命し、長年の経験と豊富な知識を使った農家への専門的な技術指導やJA営農指導員への助言のほか、仲間づくり支援や後継者育成支援などを実施



ねぎの定植後講習会(「農の匠」による圃場確認)



ねぎ栽培管理の効率化に向けた機械の展示会

3 次世代等農業者支援制度

令和4年3月から次代の農業を担う新規就農者や農業後継者、意欲ある若手農業者等の経営支援・新たな事業への取り組みの後押しを目的として設定。 **※年間助成額総額500万円**

◆制度の内容(詳細は最寄りの事業所へ)

- ▶交付対象者: 原則、申請時60歳以下の正組合員であること。
新規就農者の場合、申請時65歳以下であること。
※新規就農者: 親元就農以外の就農者かつ営農開始後5年以内
ただし、各種免許取得支援事業の場合、正組合員かつJAとの販売取引が確認できる農業法人・集落営農組織で作業に従事する60歳以下の職員等も対象とする。
- ▶支援メニュー ①経営支援事業、②6次産業化支援事業、③各種免許取得支援事業、④農業用燃料費の一部助成(未配達地域は除く)、⑤ドローン免許取得の一部助成

4 その他営農に関する取り組み

①農家組合員への令和4年度支援実績(※主なJAの支援実績)

- ▶生産コスト等上昇対策
 - 肥料価格高騰対策 : 33百万円
 - 畜産経営支援事業 : 5百万円
- ▶生産資材各種奨励
 - 肥料農業大口農家対策 : 52百万円
 - BB肥料大規模対策 : 38百万円
 - 農業生産組織対策 : 19百万円
- ▶JA独自の鳥獣被害対策の支援
90.6万円(43件)
- ▶その他販売等各種事業JA補助実績
40百万円



国の肥料価格高騰対策 事務支援(東和町支店会場)



農作業体験会(花巻市2か所(ピーマン・ぶどう)で実施)

②国の肥料価格高騰対策に係る支援実績

- ▶受付件数725件(令和4年秋肥料分)

③記帳代行による経営支援先

- ▶50件

④無料職業紹介所「アグリワーク」実績

- ▶求人者112人、43人のマッチング

◆用語解説

- 記帳代行
 - 農業にかかる日々の会計記帳をJAが代行することで、煩わしい経理事務の負担を軽減するサービス
- 無料職業紹介所「アグリワーク」
 - 農業における労働力不足の解消を目指し、働き手が必要とする生産者と農業で働きたい方の雇用関係の紹介やサポートを実施
 - 関連事項として、「農作業体験会」(花巻市で実施し8名が参加)や「JA援農支援隊」(※開農協親光が企画し、県外から「援農隊」を受入れ、西和賀地域の営農組織2先へ派遣)への協力を実施



大阪府の大阪市中央卸売市場で蜜入りサンふじ「賢治りんご」のトップセールス



TAC(営農渉外)による担い手訪問



グリーンセンター東和店(花巻市東和町)「JA資材店舗CS甲子園2022」大型陳列部門で全国優勝



遠野地域農協青年部研修会「スマート農業」の紹介



りんごの剪定技術を学ぶ交流会(果樹部会若手りんご生産者グループ「THE RINGO STAR」)



産地直売所「母ちゃんハウスだあすこ」25周年大創業祭

II 地域の活性化・協力の強化

1 「支店を核」とした事業運営の展開

令和5年3月1日より支店の管理課を組合員課へ変更。

◆背景・目的

▶ 組合員減少、それに伴う事業量の減少を最小限に抑えるため、組合員・地域住民に対して地域農業やJAへの理解促進、そして多くのJAファンを創出（組織基盤の強化）する必要があり、そのために組合員との『対話の場』や『営農』と『くらし』を支援していく体制を再構築しなければならぬと考えました。

そのため、名称を「管理課」から「組合員課」に変更することで、これまで以上に組合員に寄り添った対応、「組合員皆様の総合受付」としての機能を発揮し、組合員の要望・期待に応える事業運営、『支店を核』とした事業展開をしていく体制を整備していきます。

◆効果・ねらい

▶ ①部門間連携の醸成、②職員の営農等の知識習得、③組合員との営農を通じた対話力の向上、等

2 支店企画イベントの充実（地域貢献、「地域農業・JAのファンづくり」に向けた取り組み等）



支店感謝デーにて記念品を利用者へ「日頃の利用への感謝の気持ちを込めて、※ 全支店で年4回実施



県立北上翔南高校の生徒が育てたシクラメンを来店者へプレゼント ※支店感謝デー関連（北上・みなみ・さくら・二子支店）



スマホ教室「組合員へのデジタル化への支援」※全支店で実施



「西和賀地域スノーバスターズ」への協力（湯田・沢内支店）



収穫感謝イベント（湯田・沢内支店）



ふれあいトークでの組合長による講話（東和町支店）



小学生を対象とした「キッズ書道塾」を開催（東沢支店）



小学生による稲刈り体験（遠野市立上郷小学校）

3 その他各種取り組み等について



収穫感謝祭の実施（農業まつり代替企画、花巻・北上・遠野地域にて実施）



親子でちやくりん農園（7家族参加、年4回実施）



酪農出前教室（花巻市立石鳥谷小学校）



JAいわて花巻女性部とJA東岩手女性部との意見交換会



中学生（花巻市立花巻中学校）による職場体験学習（石鳥谷園芸センター）



「広報誌ほら一の花巻」令和5年2月号で300号

III 経営基盤の確立・強化

1 主要事業の取扱高、損益実績

	令和4年度 目標 / 実績		(参考) 中期経営計画策定時 設定目標	
	令和3年度	令和6年度	令和3年度	令和6年度
販売品販売高	194億円	195億円	200億円	210億円
農業融資残高	88億円	84億円	80億円	100億円
事業総利益	53億円	53億円	55億円	54億円
事業管理費	51億円	50億円	51億円	51億円
事業利益	1.8億円	3.4億円	3.9億円	3.0億円

2 今後5年間の事業利益シミュレーション

シミュレーション内容は現在、協議中

IV 対話・意思反映

座談会

秋期営農座談会

出席者 1,133名 会場数 117

冬期支店座談会

出席者 1,144名 会場数 105



花巻地域会場（湯本支店）



西和賀地域会場 野々宿地区集落センター

准組合員モニター制度

准組合員の意見を吸い上げて事業運営に活かすことはもちろん、アンケートを通して准組合員がJAいわて花巻の事業や商品、取り組みなどを知ることによって地域農業やJAへ興味を持ち、応援団となってもらうことを一つのゴールとし、令和4年度は准組合員50名に対し、対話型アンケート（職員が准組合員の方と会話をしながら直接回答を聞き取るような形）を実施。

- ◆主な聞き取り内容
- JA管内の農産物、オリジナル商品、産直等の認知度、産直に対する考え方（品揃えなど）
 - JA各事業の商品や取組内容の認知度
 - 農業に対する姿勢（農業を始めてみたいかなど）

地域コミュニティ誌Yuinou ～結農～

地域の皆様に地域農業やおいしい農作物、それを作る農業者やJAのことを身近に感じてもらうために地域コミュニティ紙を発行。

令和4年度は2回発行（新聞折込にて、ホームページへも掲載）し、夏号は管内の花弁について、冬号は「地産地消レシピ」を紹介。

アンケートを実施することにより、消費者の声を聞き、そして当JA管内の農産物のPRを実施。

